

2-9. 被害の構造に関する考察

被害の構造に関する考察として、犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況、被害の影響と身体上・精神的な問題との関連等について分析する。

(1) 犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況

犯罪等被害による身体上・精神的な被害の状況について、身体上の問題と事件との関連別に K6 の値をみると、重症精神障害相当の状態である 13 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 45.9%、「事件がある程度関係している」が 46.0%となっている。また、UCLA の値をみると、10 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 37.5%、「事件がある程度関係している」が 44.0%となっている。いずれも、「事件は全く関係していない」（それぞれ 29.9%、27.1%）、「事件はあまり関係していない」（同 22.3%、11.1%）との回答者と比して高くなっている（図表 9-1、9-2）。

精神的な問題と事件との関連別に K6 の値をみると、13 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 60.0%となっており、UCLA の値をみると、10 点以上の回答比率は、「事件が大いに関係している」が 49.3%となっている。いずれも、「事件は全く関係していない」（同 40.5%、40.4%）、「事件はあまり関係していない」（同 40.0%、30.0%）との回答者と比して高くなっている（図表 9-3、9-4）。

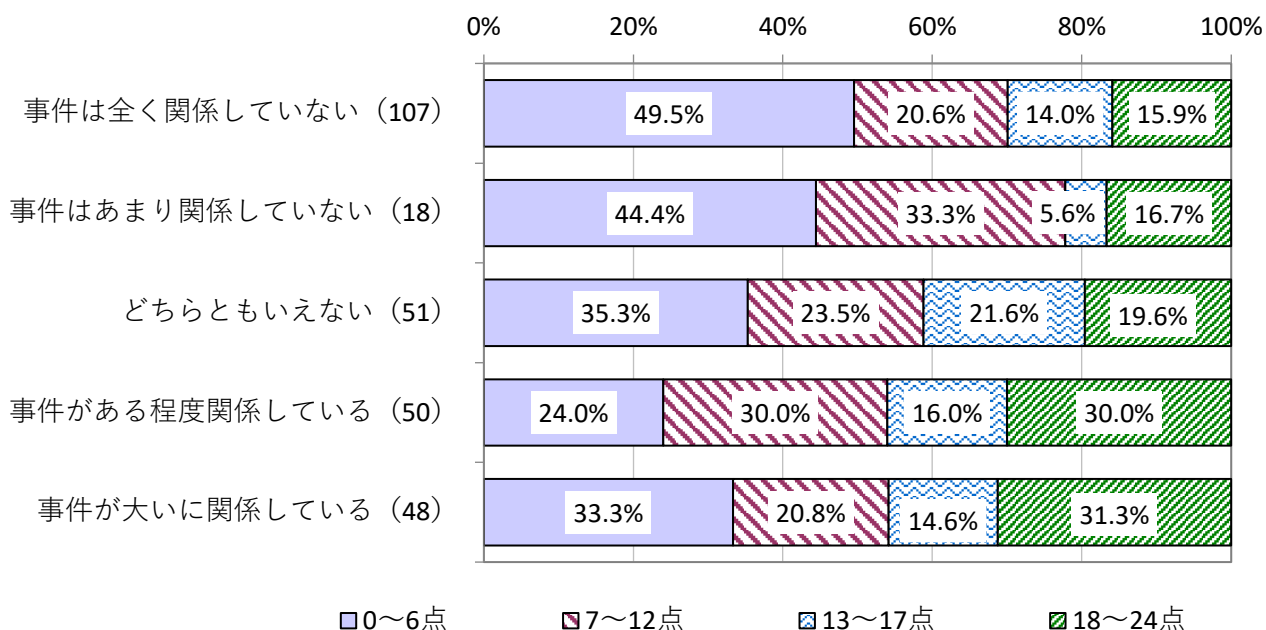
仕事や日常生活を行えなかった平均日数をみると、身体上の問題に関しては、「身体上の問題と事件が大いに関係している」との回答者が 75.7 日、「身体上の問題と事件がある程度関係している」との回答者が 66.5 日となっており、「身体上の問題と事件は全く関係していない」との回答者（35.2 日）、「身体上の問題と事件はあまり関係していない」との回答者（44.0 日）と比して高くなっている（図表 9-5）。

また、精神的な問題に関しては、「精神的な問題と事件が大いに関係している」との回答者は 87.3 日となっており、「精神的な問題と事件は全く関係していない」との回答者（41.9 日）、「精神的な問題と事件はあまり関係していない」との回答者（46.0 日）と比して高い数値となっている（図表 9-6）。

K6 の値別に仕事や日常生活が行えなかった平均日数をみると、K6 の値が「13～17 点」の場合では、犯罪被害者等が 65.2 日、一般対象者が 5.7 日、「18～24 点」の場合では、犯罪被害者等が 115.7 日、一般対象者が 109.7 日となっており、K6 の値の区分が同じ場合でも、犯罪被害者等は一般対象者と比較して仕事や日常生活が行えなかったとする日数が多い（図表 9-7）。

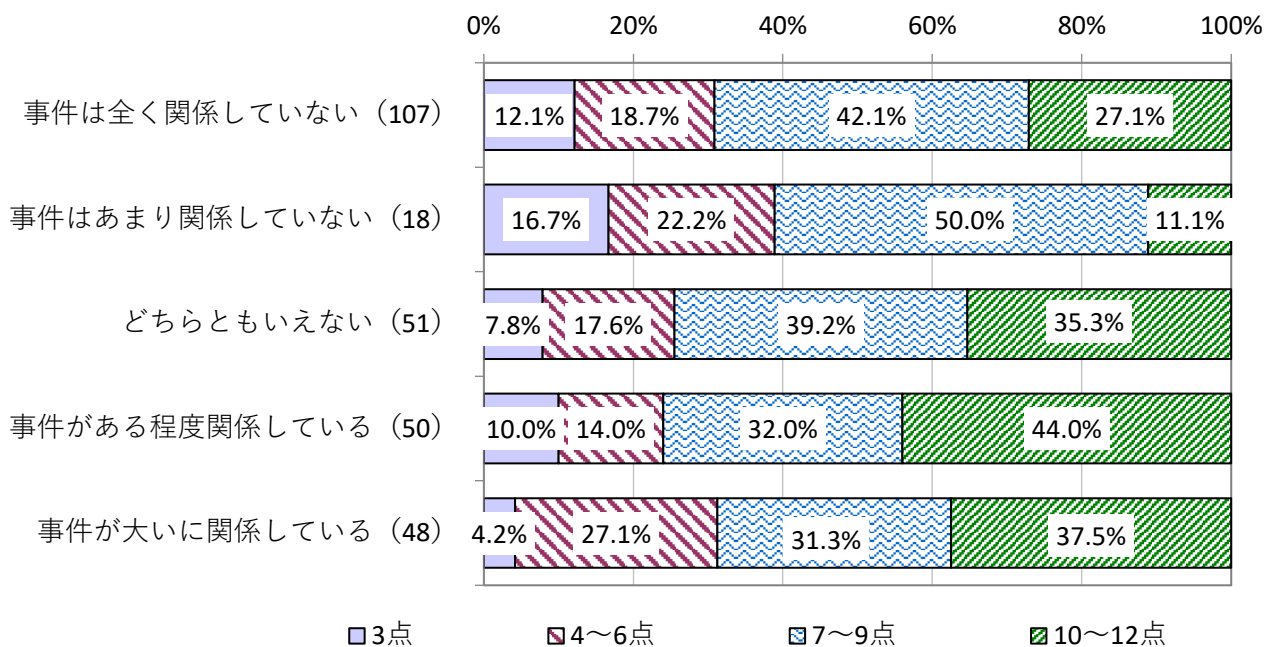
UCLA の値別に仕事や日常生活が行えなかった平均日数をみると、10 点以上の場合では、犯罪被害者等が 72.3 日、一般対象者が 36.2 日となっており、こちらも、UCLA の値の区分が同じ場合でも、犯罪被害者等は一般対象者と比較して仕事や日常生活が行えなかったとする日数が多い（図表 9-8）。

図表 9-1 身体上の問題と事件との関連別、K6 得点【Q29、Q34】



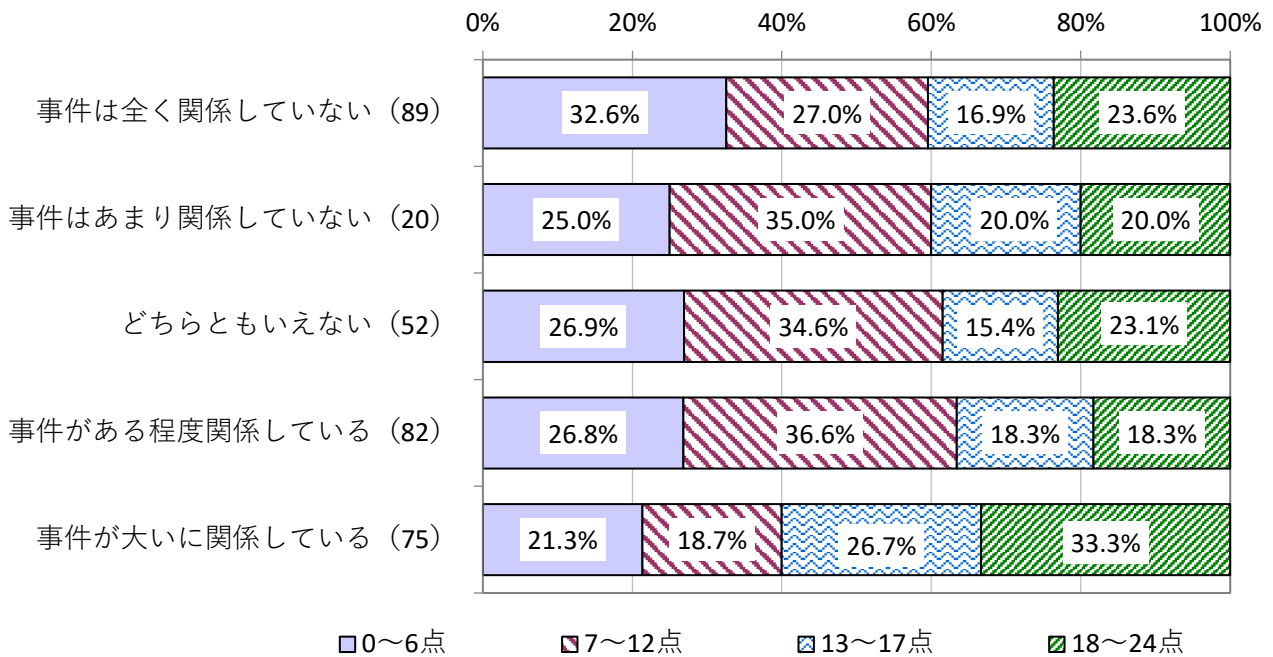
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-2 身体上の問題と事件との関連別、UCLA 得点【Q29、Q36】



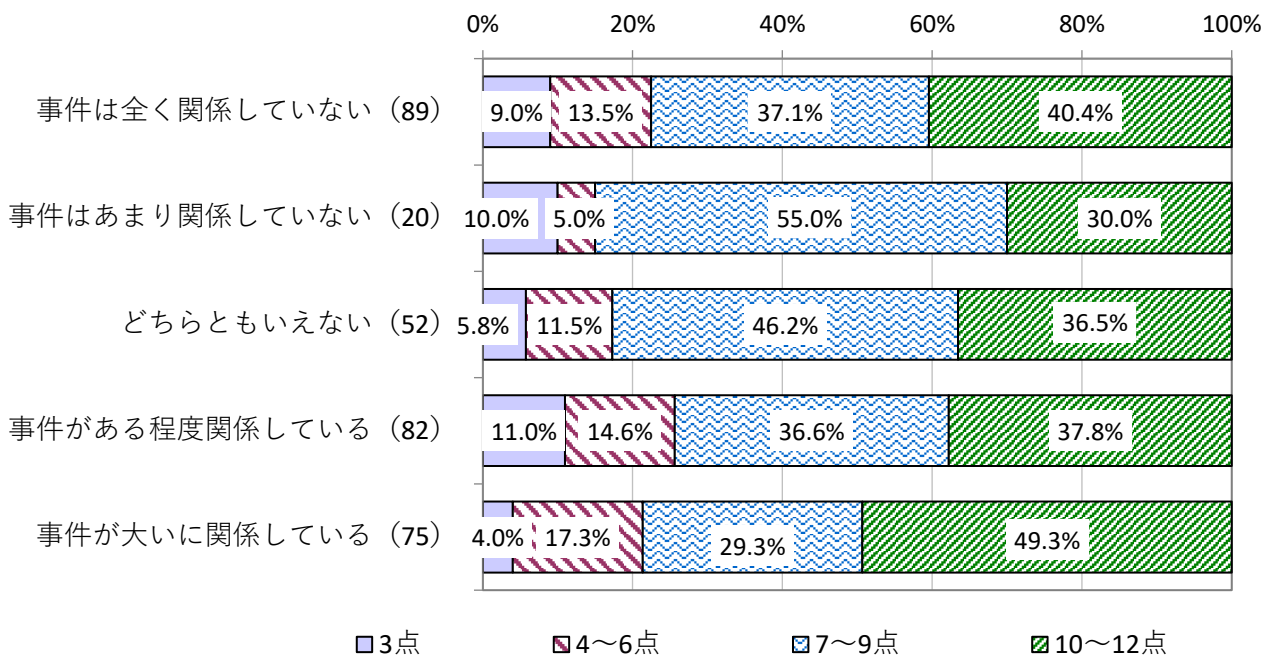
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-3 精神的な問題と事件との関連別、K6 得点【Q32、Q34】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-4 精神的な問題と事件との関連別、UCLA 得点【Q32、Q36】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-5 身体上の問題と事件との関連別、日常生活を行えなかった日数【Q29、Q35】

	平均日数
身体上の問題と事件は全く関係していない (N=107)	35.2日
身体上の問題と事件はあまり関係していない (N=18)	44.0日
どちらともいえない (N=51)	69.0日
身体上の問題と事件がある程度関係している (N=50)	66.5日
身体上の問題と事件が大いに関係している (N=48)	75.7日

※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

図表 9-6 精神的な問題と事件との関連別、日常生活を行えなかった日数【Q32、Q35】

	平均日数
精神的な問題と事件は全く関係していない (N=89)	41.9日
精神的な問題と事件はあまり関係していない (N=20)	46.0日
どちらともいえない (N=52)	68.6日
精神的な問題と事件がある程度関係している (N=82)	46.7日
精神的な問題と事件が大いに関係している (N=75)	87.3日

※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 9-7 回答者属性別、K6 得点と日常生活を行えなかった平均日数【Q34、Q35/P1、P7】

犯罪被害者等		一般	
0～6点 (N=474)	6.2日	0～6点 (N=656)	2.5日
7～12点 (N=164)	24.7日	7～12点 (N=118)	8.8日
13～17点 (N=84)	65.2日	13～17点 (N=46)	5.7日
18～24点 (N=97)	115.7日	18～24点 (N=31)	109.7日

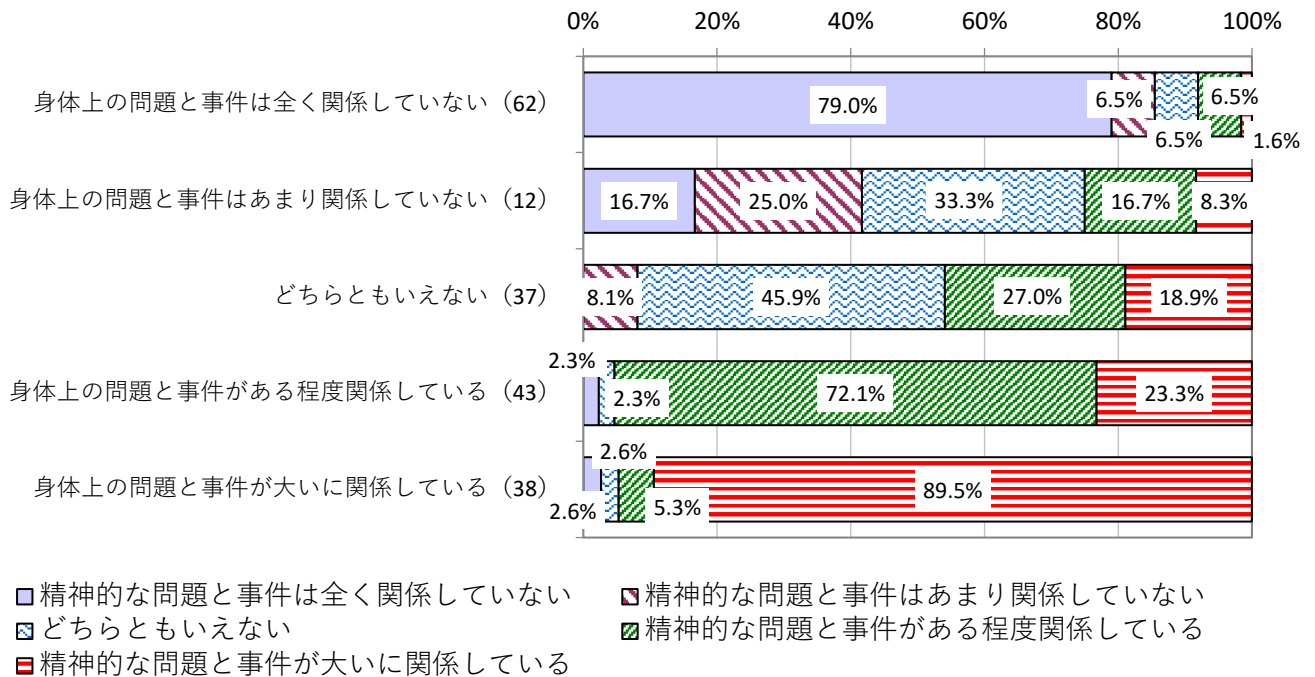
図表 9-8 回答者属性別、UCLA 得点と日常生活を行えなかった平均日数【Q36、Q35/P2、P7】

犯罪被害者等		一般	
3点 (N=115)	3.6日	3点 (N=205)	2.2日
4～6点 (N=197)	13.8日	4～6点 (N=280)	3.2日
7～9点 (N=297)	18.0日	7～9点 (N=265)	5.1日
10～12点 (N=210)	72.3日	10～12点 (N=101)	36.2日

(2) 事件の影響と身体上・精神的な問題との関連

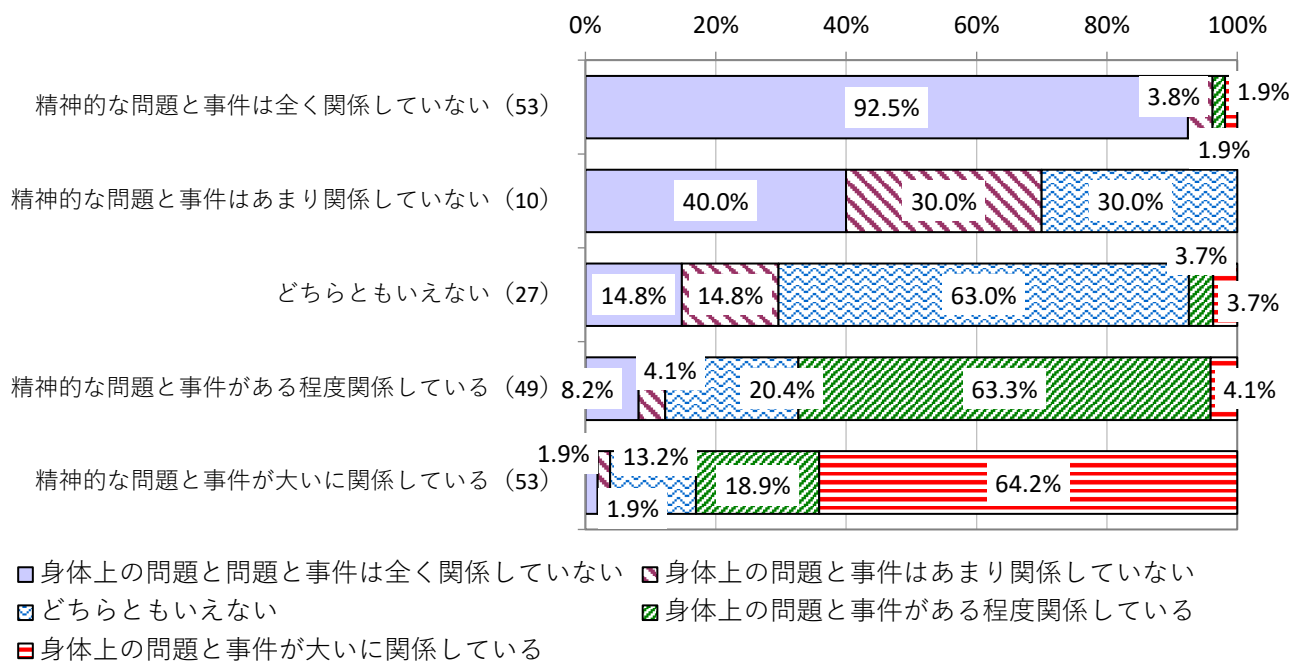
事件の影響と身体上・精神的な問題との関連については、「身体上の問題と事件が大いに関係している」「身体上の問題と事件がある程度関係している」との回答者は、「精神的な問題と事件が大いに関係している」「精神的な問題と事件がある程度関係している」との回答比率も高くなっている（逆も同様）（図表 9-9、9-10）。

図表 9-9 身体上の問題と事件との関連別、精神的な問題と事件との関連【Q29、Q32】



※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答し、かつ Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（192人）のみ。

図表 9-10 精神的な問題と事件との関連別、身体上の問題と事件との関連【Q32、Q29】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答し、かつ Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（192人）のみ。